

f.tech inc.



第61期 報告書

平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日

株式会社エフテック

証券コード：7212

安定的かつ持続的な成長を目指し、 全てのステークホルダーと分かち合える 繁栄を築いてまいります。



株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

このたび発生した熊本地震により被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

代表取締役社長 **福田 祐一**

Q 第61期を振り返り、 営業状況を総括願います。

全般的には、北米を中心とする自動車販売の好調を背景に需要が増加し、売上高・利益ともに順調に拡大した1年でした。ただし、第4四半期からは為替が円高に転じ、資源価格も不安定な展開を示すなど、潮目が変わってきており、今後への懸念を残しています。

地域別に見ると、北米では特にカナダが販売を伸ばし、アジアでは中国及びタイが前期の落ち込みからの回復を示しました。一方、日本国内は近年市場が縮小しており、当期も厳しい状況が続きました。

自動車メーカー別の販売状況では、米国ゼネラルモーターズ（以下GM）向けの売上割合が9.7%に達し、得意先である本田技研工業（以下ホンダ）向けの77.6%に次ぐ柱として育ってきました。ホンダ向け販売も前期比9.9%増と伸びており、全体の売上規模を拡大し

ながら、収益安定につながるバランス変化を遂げています。

結果として連結業績は、売上高1,963億43百万円（前期比11.8%増）、営業利益68億21百万円（同22.6%増）、経常利益61億82百万円（同6.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は固定資産売却益が加わり27億4百万円（同52.6%増）となりました。

Q 今後の成長に向けた 取り組みをご説明願います。

当社は今後、GM向けの売上割合を15%程度まで高めるべく、海外生産拠点の能力拡充を進めています。2015年は米国の当社子会社であるF&P AMERICA MFGと中国の偉福科技工業（武漢）に大型トランスファープレス機を導入し、サブフレーム等主要製品の生産を開始したほか、メキシコのF&P MFG DE MEXICOにも2台の大型プレス機と溶接ラインの導入を進

めており、2016年下期には試運転を開始する予定です。

また、生産改善への取り組みとして特に労務費の上昇が顕著な中国では、溶接ロボットの多様化やタンデムプレスラインへの自動搬送装置の導入を進めていき、省人化によりコスト競争力を高めています。

こうした生産投資を行う一方、インドやマレーシア、ブラジルなどの自社拠点がない地域では、現地サプライヤーとの技術提携を通じてグローバル機種生産ニーズに対応しており、部品供給体制の最適化に向けて、提携先への技術供与や品質管理指導を行うとともに信頼関係の強化に努めています。

開発面では、国内でグローバル機種開発に取り組む芳賀テクニカルセンターを中心に、現地専用機種を扱う米国・オハイオ/デトロ

イト及び中国・広州、ペダル開発が中心のフィリピンの各開発子会社が連携し、これに欧州での技術リサーチや欧米OEMへのアプローチを行うドイツ・デュッセルドルフの開発事務所を合わせ、世界5極の研究・開発体制を構築しています。

当社に求められている開発テーマは、第一に自動車の燃費向上につながる部品の軽量化と強度・剛性の確保を両立させる事です。その実現に向けて、当社は部品の構造強度や性能の評価に用いるCAE（コンピュータ利用解析）をカスタマイズし、クラウドを活用して開発拠点間で最新データを常に共有しながら、開発効率の最適化を行っています。

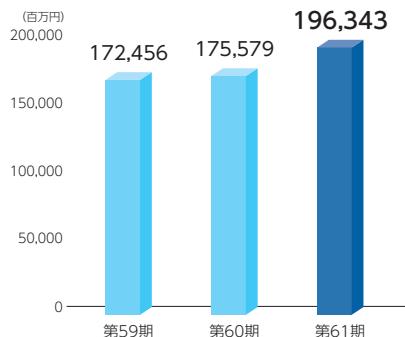
当社の研究・開発体制から生み出される各種提案への評価が高まり、現在GMだけでなく他の海外自

動車メーカーからの引き合いも増えつつあります。そうした引き合いを一過性のものとするのではなく、当社の強みや特長を永続的に磨き続ける事で、各自動車メーカーとの長期的な関係構築に結び付けるべく、営業だけでなく開発生産、その他の部門も一体となり、新規受注活動を進めていきます。

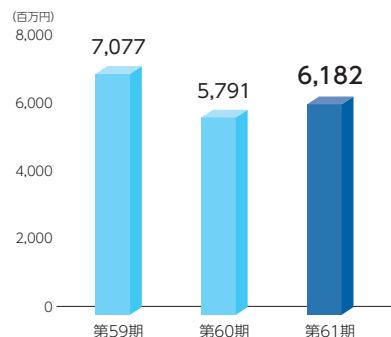
Q 中期三カ年計画の進捗状況はいかがですか？

「圧倒的な競争力をもつシャーシシステムメーカーになる」を全社方針に掲げた第12次中期三カ年計画は、今期（第62期）が最終年度となります。この2年間は、日本の大幅な生産減少や逆にアジア市場における減産からの回復等、予想以上に目まぐるしい事業環境の変化に見舞われました。その中で、

売上高（連結）



経常利益（連結）



親会社株主に帰属する当期純利益（連結）



計画最終年度の目標数値である「売上高2,000億円」「営業利益100億円（営業利益率5%以上）」「有利子負債依存度30%以下」については、今のところ売上高は順調な増加を示しながらも、利益面では乖離が生じている状況です。有利子負債依存度は、新規受注に伴う生産設備投資増により当期末現在42.5%となっています。

当社の事業展開の基本はホンダ向けビジネスが中心であり、変わる事はありません。その上で、今後は更に、ホンダ向けを柱としつつ、他メーカーへの販売も拡大していく流れを着実に進めてまいります。また技術領域及び開発領域においても大きな進展がありました。技術領域では、鉄とアルミなど異材を接合する摩擦攪拌接合（FSW）技術を活用した生産が拡



大し、非破壊検査システムを確立しました。また、厚板超精密塑性加工の量産化などの新技術にも着手しました。開発領域では、多軸ロードシミュレータを導入した解析強化や、軽量化設計に向けたツールの最適化が成果を挙げています。

三カ年計画の総仕上げを行う今回は、先に述べました成長への取り組みを推進し、引き続き海外での積極展開を図ってまいります。しかし事業環境は、北米市場を中心に好調に推移すると見られるものの、足もとでは円高が進行しており、北米での売上が全体の6割以上を占める当社へのマイナス影響が予想されます。そのため今期の連結業績は、売上高1,920億円（当期比2.2%減）、営業利益65億円（同4.7%減）、経常利益62億円（同0.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益28億円（同3.5%増）を見込んでいます。

Q 株主の皆様へのメッセージ をお願いします。

このたびの期末配当は、予定通り1株当たり10円とさせていただきました。これにより年間配当額は、同額の間配当と合わせて同20円（前期同額）となりました。

引き続き業績の向上に努め、財務体質の強化と成長投資の源となる内部留保の水準を見極めながら、株主の皆様への安定した利益還元を確実に行ってまいります。

平成28年4月1日付で代表取締役社長に就任し、1年余りが経過しました。あっという間に過ぎた就任初年度でしたが、国内外の全拠点を回り、多くの従業員と接する中でグループとしての一体感を感じ、また変化を前向きに捉え、チャレンジしていかなければならないと強く再認識しました。

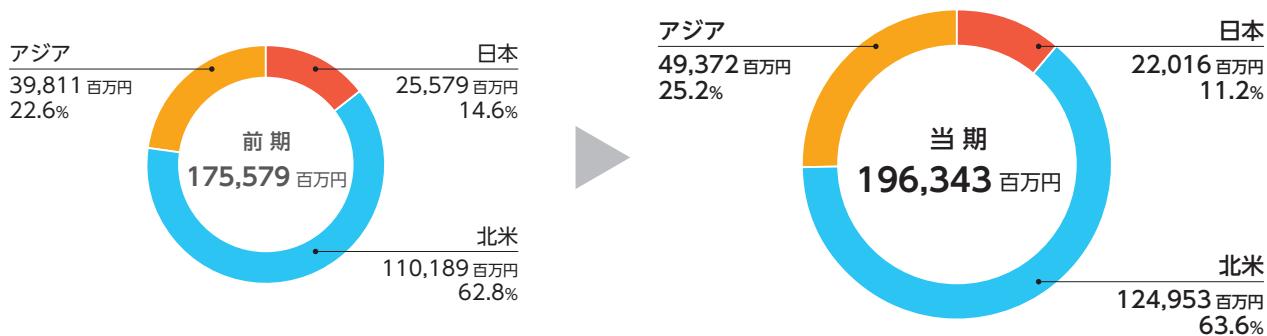
当社は、安定的かつ持続的な成長を目指す企業として、株主の皆様のご期待に応え、全てのステークホルダーと分かち合える繁栄を築いてまいります。そして、その実現に向けた取り組みをより多くの方々にご理解いただくために、IR活動をはじめとするコーポレートコミュニケーションに今後一層注力していく所存です。

株主の皆様におかれましては、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月期の連結業績予想

売上高	1,920億円
経常利益	62億円
親会社株主に帰属する当期純利益	28億円
1株当たり当期純利益	182.34円

所在地別売上高及び比率（連結）



日本	
売上高	22,016 百万円
営業利益	381 百万円

当社の主要得意先の生産台数減少に伴って受注量が減少し、売上高は22,016百万円（前期比13.9%減）、営業利益381百万円（同12.0%減）となりました。

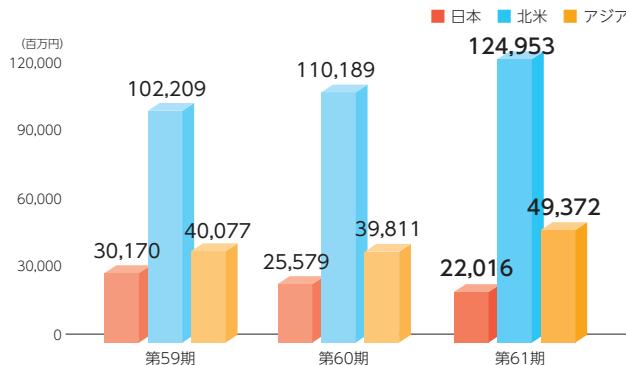
北米	
売上高	124,953 百万円
営業利益	4,675 百万円

北米市場は堅調な自動車販売が継続し、為替影響も相まって、売上高124,953百万円（前期比13.4%増）、営業利益4,675百万円（同0.9%増）となりました。

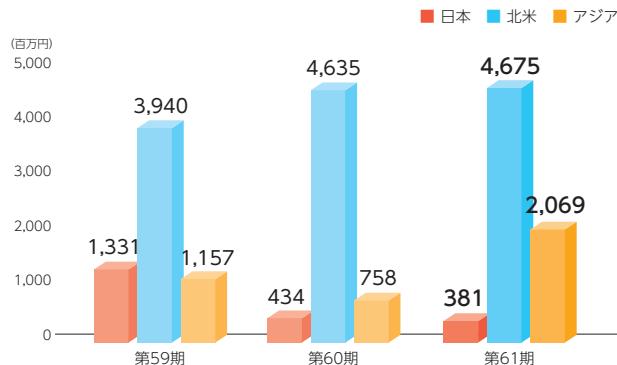
アジア	
売上高	49,372 百万円
営業利益	2,069 百万円

中国での新規得意先向けの量産立上及びタイでの主要得意先の生産台数の回復及び拡販等に伴い、売上高は49,372百万円（前期比24.0%増）、営業利益は2,069百万円（同172.7%増）となりました。

所在地別売上高の推移



所在地別営業利益の推移



当社グループは、第12次中期事業計画で掲げた「圧倒的競争力を持つシャーシシステムメーカーになる。」との方針のもと、更なる成長に向けて挑戦を続けています。今期、同事業計画の最終年度となる現状の取り組みをご紹介します。

シャーシシステム体質への変革

顧客ニーズに合致した最適形態で供給

サブフレーム、サスペンション単体からシステムまでを開発製造

単体部品から
複合でシステム化

複合でのシステムとして最軽量開発

組み付け完成状態での総合品質保証

最適加工技術の実現

シミュレーション技術を駆使して最適化設計

ブッシュ、ボールジョイントの自社調達化

最軽量、高剛性を両立し、コスト競争力ある単体部品の開発、提案

将来



左図は、ベースとなるサブフレーム、サスペンションアームの単体部品から複合システムで開発・製造するシャーシシステムまでのプロセスを表しています。当社はお客様の様々なニーズに応じた単体部品からシャーシシステムまでの供給力と対応力を有しています。お客様のニーズをしっかりと把握し、最適形態で供給できる体制をグローバルで整えてまいります。



ベース

製品開発

軽量化、強度、剛性、操縦安定性を確保

最適化設計



CAE解析 (ADAMS)



ロードシミュレータ



実機・試作・製造



製品開発においては、最適設計を目指して最適化という設計ツールを駆使し軽量化提案を行っています。そこで設計したものをADAMSという解析ソフトを用いて自動車としての走行性などの解析シミュレーションを行います。更に、その後も試作品での測定、品質保証、精度確認を行い、ロードシミュレータに乗せて実際の走行条件でのテストをするなど、高品質な製品開発を進めています。

F&P Group各社が品質賞等を受賞

F&P Group各社はホンダ（アメリカ）から品質賞をはじめ、搬入賞、サービスパーツ賞を受賞しています。その他、トヨタ（カナダ）から品質基準を達成した事によるCertificate of Achievementを2年連続6度目、GMからサービスパーツ搬入実績よりCertificate of Excellence PLATINUMを2年連続2度目の受賞をいたしました。当社は、日本で培ってきたノウハウを各地に展開して世界トップレベルの品質を目指していきます。



本田技研工業からの新規/継続受注

日本をはじめ中国、アジア、北米で新規・継続受注

Odyssey Hybrid



日本
 【NSX,他】

GREIZ



中国
 【Elysion,他】

CIVIC



北米
 【ACURA,他】

BR-V



アジア
 【CITY,他】

お客様ニーズを的確に捉え軽量化、強度・剛性を両立し、高い信頼性を有した製品提案を行う事で、継続受注を実現しています。特に本田技研工業では、日本をはじめ中国、アジア、北米においてビジネスを拡大しております。

グローバルでの販売拡大

専門メーカーとして各OEMから高評価を獲得

本田技研工業以外にも、足廻り専門メーカーとして新たな受注獲得に取り組んでいます。特に米国ゼネラルモーターズ(GM)からは、開発提案力、多様化するニ

ズへの対応力、生産技術力、品質保証力を総合的に評価していただき、グローバルでの受注拡大を図っております。

INNOVA



TOYOTA
 アジア
 (フィリピン)

ERTIGA



SUZUKI
 アジア
 (インドネシア)

PAJERO SPORTS



MITSUBISHI
 アジア
 (タイ)

Cadillac SRX



GM
 北米
 (アメリカ)

Camaro



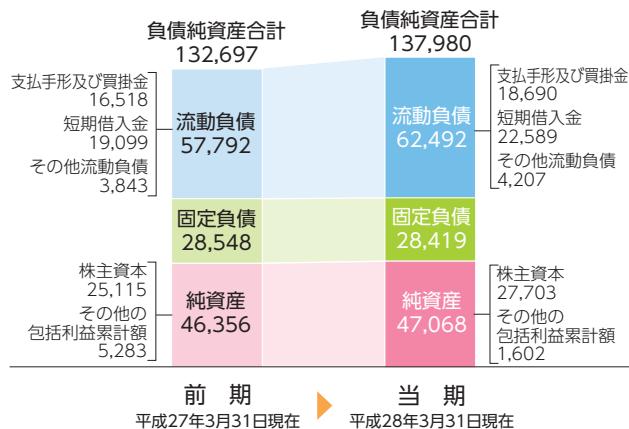
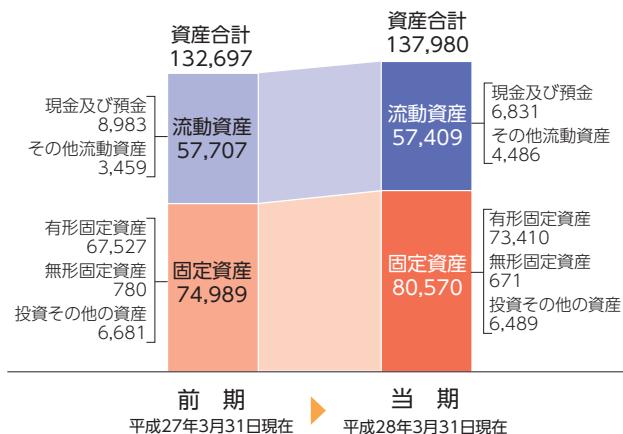
GM
 北米
 (カナダ)

Buick Excelle

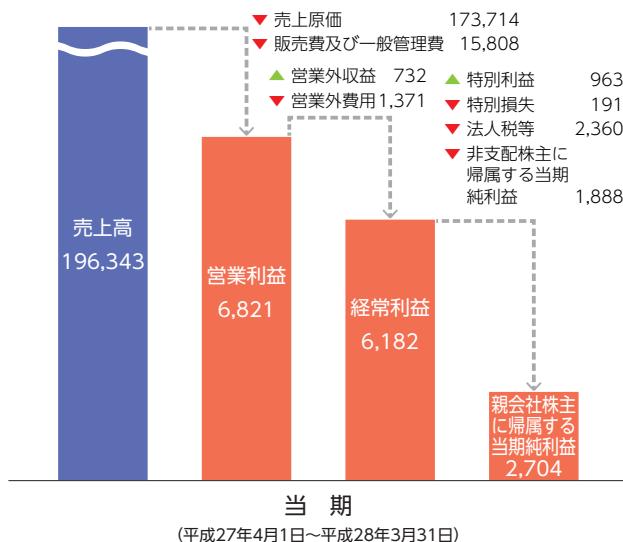


SGM
 中国
 (武漢)

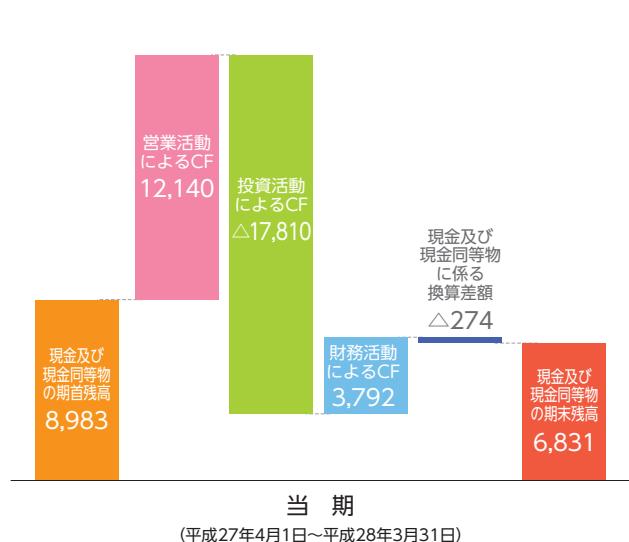
連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



Global Network



海外グループ会社

- F&P MFG.,INC.
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg.,Inc.
- F&P AMERICA MFG.,INC.
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg.,Inc.
- F.TECH R&D NORTH AMERICA INC.
- Michigan/R&D NA Office
- F.tech R&D North America Inc. European Branch
- FEG DE QUERETARO,S.A.DE C.V.
- F&P MFG.,DE MEXICO S.A.DE.C.V.
- F.tech Inc. Office UK
- F.TECH PHILIPPINES MFG.,INC.
- F.tech R&D Philippines Inc.
- F.TECH MFG. (THAILAND) LTD.
- PT.F.TECH INDONESIA
- 偉福科技工業(中山)有限公司
- 偉福科技工業(武漢)有限公司
- 煙台福研模具有限公司
- 偉福(広州)汽車技術開発有限公司
- Johnan America,Inc (USA)
- Johnan De Mexico,S.A.de C.V.
- Johnan UK Ltd.
- Johnan F.tech (Thailand) LTD.
- PT.JFD,INDONESIA
- 城南武漢科技有限公司
- Progressive Tools & Components (P) LTD.

Domestic Network



国内拠点

- ★ 本社・久喜事業所
- 亀山事業所
- 芳賀テクニカルセンター
- 設備センター

国内グループ会社

- フクダエンジニアリング株式会社
- 株式会社九州エフテック
- 株式会社リテラ
- 株式会社城南製作所

■ 会社概要 (平成28年3月31日現在)

商号 株式会社エフテック
 本社 〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
 TEL 0480(85)5211 (代)
 創業年月 昭和22年7月
 資本金 4,790百万円
 決算期 3月31日(年1回)
 連結従業員 7,948名

■ 役員 (平成28年6月21日現在)

代表取締役社長	福田 祐一	取締役兼上席執行役員	小川 和彦 (エンジニアリング本部長)
代表取締役副社長執行役員	安藤 研一 (グローバルSED統括)	社外取締役	廣瀬 治男
取締役兼専務執行役員	豊田 正雄 (経営企画室長)	常務執行役員	長谷川 誠 (北米地域統括 F&P MFG., INC.会長 F&P AMERICA MFG., INC.会長 F-TECH R&D NORTH AMERICA INC.会長 F&P MFG., DE MEXICO S.A.DE. C.V.会長)
取締役兼常務執行役員	藤瀧 一 (営業本部長)		
取締役兼常務執行役員	宮岡 規之 (購買本部長)	上席執行役員	飛田 茂晴 (中国地域統括 偉福科技工業(中山)有限公司総経理)
取締役最高顧問	福田 秋秀	上席執行役員	外山 守 (ア地域統括 F-TECH MFG.(THAILAND)LTD.社長)
取締役相談役	木村 嗣夫	監査役	梅津 啓二
取締役兼上席執行役員	古澤 好記 (開発本部長)	監査役	若林 博美
取締役兼上席執行役員	竹内 満 (生産本部長)	社外監査役	遠西 昭
取締役兼上席執行役員	青木 啓之 (管理本部長)	社外監査役	中村 重治

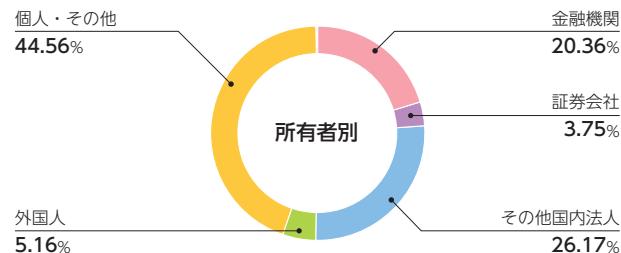
■ 株式の状況 (平成28年3月31日現在)

発行可能株式総数…………… 36,360,000株
 発行済株式の総数…………… 15,390,000株
 株主数…………… 7,112名

■ 大株主の状況

大株主 (上位10名)	持株数 (千株)	出資比率 (%)
本田技研工業株式会社	2,551	16.58
福田秋秀	1,691	10.99
株式会社埼玉りそな銀行	613	3.98
住友商事株式会社	497	3.23
福田順子	360	2.34
株式会社みずほ銀行	360	2.34
有限会社フクダ興産	339	2.20
福田祐一	299	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	291	1.89
東海東京証券株式会社	290	1.88

■ 株式分布状況



■ ホームページのご案内

IR情報開示に関する専用ページから、株主の皆様へ向けて適時情報開示を行っています。
ぜひ一度ご覧ください。



IR掲載コンテンツ

- 決算短信
- 有価証券報告書等
- コーポレートガバナンス
- 株主総会招集通知
- 株主通信
- 電子公告
- IRカレンダー
- 株式に関するご案内
- 会社説明会資料

当社HPでは、製品・技術情報、品質への取り組み、最新ニュース等を掲載しています。
インターネットを通して発信する、エフテックの魅力の一端をどうぞご覧ください。

エフテック



<http://www.ftech.co.jp/>

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (0120) 782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の 全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際はの添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。